

## 2026 年度学生募集要項（博士前期課程）

入学年度	試験区分コード
2026 年度秋季(10 月)	2262

## 1 募集人員

専 攻	教育研究領域	募集人員
コンピュータ・ 情報システム学専攻	CS：コンピュータサイエンス SY：コンピュータシステム CN：コンピュータネットワークシステム IT：応用情報工学 SE：ソフトウェアエンジニアリング	若干名
情報技術・ プロジェクトマネジメント専攻	PM：プロジェクトマネジメント & IT スペシャリスト	若干名

## 2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第 83 条に規定する大学を卒業した者及び 2026 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者及び 2026 年 3 月 31 日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2026 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2026 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び 2026 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び 2026 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び 2026 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (8) 学校教育法施行規則第 155 条第 1 項第 6 号の規定により文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）

- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、本学大学院の教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2026 年 3 月 31 日において 22 歳に達する者
- (11) 2026 年 3 月 31 日において、次のア～エのいずれかを満たす者であって、本学大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めた者
- ア 学校教育法第 83 条に規定する大学に 3 年以上在学した者
- イ 外国において学校教育における 15 年の課程を修了した者
- ウ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した者
- エ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

注1) 2026 年度秋季入学出願者(2262)は、上記出願資格の「2026 年 3 月 31 日」を「2026 年 9 月 30 日」と読み替える。

注2) 企業等に在職のまま、出願・入学することができる。

注3) 全ての出願者は、出願の前に、入学後の研究計画等について、指導を受けようとする教員に了承を得ること。外国人留学生は、了承を得た後、本学所定の様式（Request for Research Advisor Acceptance）に所要事項を記入し、当該教員に提出すること。

注4) (9)、(10)、(11)により出願を希望する場合には、「本学大学院が認めた者」に該当するかどうか事前に審査する必要があるので、「10 出願資格の事前審査を要する場合」をよく読んで提出期限までに事前審査書類を提出すること。

### 3 出願手続

#### (1) 出願方法

出願書類は、事前に電子ファイル化して E-mail により送付し、確認を受けた後、すべての原本を提出期限までに到着するように追跡可能な手段で送ること。

入学手続時に提出書類の原本を確実に提出することができる者に限り、電子ファイル（PDF）化した書類による出願を認める。希望する者は、下表の方法で E-mail により提出すること。なお、出願時に提出した電子ファイルと入学手続時に提出した原本に相違がある場合、あるいは入学手続の期限までに原本の提出がない場合は、書類不備として入学を許可しないことがあるので十分に留意すること。

出願書類		提出者	提出方法
1	推薦書	推薦人	推薦人本人が、所属機関の E-mail アドレスを使用して提出すること。出願者を經由（CC 等による共有を含む）しての提出は認めない。
2	推薦書以外の出願書類	出願者	提出書類一式に、入学手続の期限までに原本を提出する旨を記載した書類（書式自由）を添えて、出願者本人が提出すること。

#### (2) 出願書類送付先

〒965-8580 会津大学 学生課学生募集係

TEL : [+81] 242 - 37 - 2723

FAX : [+81] 242 - 37 - 2526

E-mail : [gs-application@u-aizu.ac.jp](mailto:gs-application@u-aizu.ac.jp)

## (3) 出願期間

試験区分コード	試験区分	出願期間
2262	2026 年度秋季入学試験	2026 年 4 月 3 日(金)から 4 月 24 日(金) (日本時間)


## (4) 出願書類

出願書類は、特に記載のない限り**すべて原本を提出**すること。やむを得ず原本を提出できない場合は、原本証明を受けたコピーを提出すること。

様式には日本語又は英語で明瞭に記入すること。ただし、指定があるものは英語で記入すること。

証明書等が日本語又は英語以外の言語である場合は、証明書等の厳封を解いたうえで、大使館、公証役場、出身大学又は政府公認機関等で公証印を受けた翻訳（本人作成可）を添付すること。

出願書類		提出者	摘要
1	入 学 願 書	全員	本学所定の様式(M1o)に所要事項を記入すること。 氏名はパスポート表記のとおりとすること。
2	住 所 票 写 真 票 受 験 票	全員	本学所定の様式(M2o)に所要事項を記入すること。 裏面に氏名を書いた写真（縦 4 cm×横 3 cm、正面上半身無帽、背景なし、出願前 3 か月以内に単身で撮影したもの。）を写真票、受験票の所定の箇所に貼ること。
3	卒業(見込) 証明書又は 在学証明書	全員	出身大学の長等が作成したもの。(英文) 外国の大学の場合は、 <b>学位取得証明書</b> もあわせて提出すること。
4	成績証明書	全員	出身大学の長等が作成したもの。(英文)
5	研究計画書	全員	本学所定の様式(M3)を使用し、計画している入学後の研究内容等について英語で記入のこと。 注：遠隔地に居住している等の事情により、指導を受けようとする教員の署名や押印を得られない場合は、教員が了承していることを示す E-mail の写しを添付すること。
6	推 薦 書	全員	本学所定の様式(M4)を使用し、出願者の履修能力、業績等を客観的に証明することのできる者（出身大学の指導教員等）が英語で作成し、封印をしたもの。 <b>注：推薦人が遠方に居住している等の事情により、封印をした推薦状を用意できない場合は、電子ファイル（PDF）化した推薦状を受け付ける。希望する場合は、推薦人本人が、所属機関の E-mail アドレスを使用して、本学の出願書類提出先へ送信すること。封印が要件であるので、出願者本人には開示しないこと。出願者を經由（CC 等による共有を含む）しての提出は認めない。</b>

7	英語試験の成績証明書	全員	<p>TOEIC、TOEFL、IELTS、Duolingo English Test のいずれかの成績証明書（出願前2年以内に受験したもの）。</p> <p>なお、英語を母語とする者及び英語による教育（<b>学士以上の学位課程に限る</b>）を受けた者は提出不要だが、後者の場合、教育での使用言語について学位を授与した大学が証明する文書を提出すること。</p> <p>注：外国人留学生は、TOEIC スコア 600 点相当以上が望ましく、出願には少なくとも TOEIC スコア 500 点相当（TOEFL iBT：40、IELTS：3.5、Duolingo：45）を必要とする。</p>
8	入学検定料	全員	<p>2026 年度秋季入学試験 各 30,000 円</p> <p><b>Flywire</b> により送金し、支払完了通知メールの写しを添付すること。  <a href="https://landing-pages.flywire.com/landing/u-aizu-app-land">https://landing-pages.flywire.com/landing/u-aizu-app-land</a></p> <p><b>Flywire</b> を利用できない場合、<u>出願者本人を振込人名義</u>として、<u>日本円</u>で以下の口座に入金し、送金を証明する書類を添付すること。  <u>手数料はすべて送金者負担</u>とし、下記口座への入金額がちょうど 30,000 円となるように送金すること。</p> <p>銀行名：みずほ銀行  SWIFT：MHCBJPJT  支店：会津支店（支店番号：725）  支店住所：福島県会津若松市中央 1-1-25  口座番号：（普）1178709  口座名義：コウリツダイガクホウジン アイツダイガク  公立大学法人 会津大学</p> 
9	教育課程表	出願資格 (9) (11) の該当者	<p>在籍する学科等の開講科目の講義内容が詳細に記載されたもの。（英文）。</p>
10	パスポート（在留カード）の写し	外国籍の者	<p>パスポートの写し（氏名、生年月日、国籍等が記載されているページ）を提出すること。未取得の場合は、これらの情報を確認できる身分証明書等の写しを提出すること。</p> <p>日本の在留カードを所持している者はその表裏両面の写しも提出すること。</p>
11	その他	該当者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業等において研究などに従事した履歴がある場合は、職務及び主な研究業績について所定の様式(M5)に記入すること。</li> <li>2. GRE を受験している場合は、そのスコア又は取得級の公式証明書（写し可）。</li> </ol>

## 4 注意事項

- (1) 不備のある出願書類、出願締切日時を過ぎて到着した出願書類は受付けない。また、その他の理由によって出願が受理されない場合がある。
- (2) 出願書類受理後は、いかなる理由があっても当該書類及び入学検定料は返還しない。
- (3) 出願後の出願書類の記載の変更は認めない。
- (4) 出願書類に虚偽の記載があった場合には、入学許可後であっても入学を取り消すことがある。
- (5) **出願資格の(1)から(7)において、その「見込み」で出願したものは、入学時に卒業証明書等関係書類を提出すること。その要件を充足しないこととなった場合は、入学許可を取り消す。**
- (6) 上記(4)、(5)により入学許可を取り消した場合にも、関係書類及び入学検定料、入学料等の納付金は返還しない。
- (7) 海外居住者とは、出願期間開始から入学手続完了時まで海外に在住している者である。

## 5 選抜

選抜は書類審査によって行われる。海外居住者選抜試験では、原則として面接試験は行わない。ただし、英語力を含む基礎学力を確認するため、予定指導教員がオンライン面談を実施することがある。

## 6 合格発表

### (1) 合格者発表方法

本学 Web ページに合格者の受験番号を掲載するとともに、合格者本人あてに文書で通知する。電話、E-mail、その他による可否の問い合わせには一切応じない。

URL: <https://u-aizu.ac.jp/admissions/graduate/result/>

### (2) 合格者発表日時

試験区分コード	試験区分	発表日時
2262	2026 年度秋季入学試験	2026 年 6 月 12 日(金) 午前 11 時頃 (日本時間)

## 7 入学手続

### (1) 入学手続方法

- ア 入学手続に必要な書類等については、合格発表後に送付する。
- イ 提出書類に記入の上、追跡可能な手段で送ること。送付先は「3 出願手続」の(2)出願書類送付先に同じ。
- ウ 必要な書類がすべてそろっていない場合には受付できないので、提出の前に十分確認すること。
- エ 一度受付をした入学手続書類は、いかなる理由があっても返還しない。
- オ 一度納付された入学料は、原則として返還しない。
- カ 所定の期日までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱う。

### (2) 入学手続期間

試験区分コード	試験区分	手続期間
2262	2026 年度秋季入学試験	2026 年 7 月 1 日(水)まで (日本時間)

- (3) 初年度納付金（2025 年度） ※2026 年度の金額・納入時期については、変更となる場合がある。

区 分	金 額	納入時期
入 学 料	282,000 円	7(2)の入学手続時
授 業 料	520,800 円	5 月末日及び 11 月末日を納期限として分納（各 260,400 円）する。
学生教育研究災害障害保険料	(2 年分) 1,750 円	7(2)の入学手続時
インバウンド付帯学総 (外国人留学生のみ)	(2 年分) 3,260 円	7(2)の入学手続時

## 8 その他

- (1) 日本への入国、在留資格等手続（外国人留学生）

本学大学院に入学するために必要な入国及び在留資格等手続については、入学時まで完了することが必要である。入国等の手続が完了せず、実際に入学ができなかった場合の責任は、すべて出願者本人に帰するものとし、提出書類及び納付金等の返還は行わない。

在留資格認定証明書交付申請の手続については、合格発表後、入学手続に必要な書類等とあわせて通知する。なお、必要書類等は本学ホームページに掲載しているので、予め確認すること。

URL: <https://u-aizu.ac.jp/campus/residencecard/preadmission.html>

在留資格認定証明書の申請に入学許可書が必要であるが、本学の入学許可書は、入学金が納付され入学手続が完了した後に交付するので注意すること。留学ビザの取得については、あらかじめ大使館等に確認すること。

- (2) 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構の大学院奨学金等があり、詳細については入学後、説明会を行う。

- (3) T A 制度

大学院生が学部授業（演習等）の補助業務を行う T A（ティーチングアシスタント）制度がある。

T A を委嘱された場合は、従事した時間に応じて報償費が支給される。

- (4) 生活費

現在、必要な生活費は 1 か月当たり約 10 万円である（授業料除く）。

- (5) 下宿・アパート

学生は自分で下宿・アパートを探す必要がある。なお、下宿・アパートについての情報は、本学ホームページに掲載する。 URL: <https://u-aizu.ac.jp/campus/apartment/>

- (6) 入学者選抜試験に関する問い合わせ

問い合わせ先：会津大学学生課学生募集係

E-mail : [admission@u-aizu.ac.jp](mailto:admission@u-aizu.ac.jp)

## 9 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「公立大学法人会津大学が取り扱う個人情報の保護等に関する規則」に基づいて取り扱う。

- (1) 出願にあたって知り得た氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続事務を行うために利用する。

- (2) 入学者選抜に用いた試験成績は、入学後の教育指導及び今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用することがある。
- (3) 出願にあたって知り得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、入学者のみ①教務関係（修学指導等）、②学生支援関係（学籍、健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請、入寮者選定等）、③授業料徴収関係の業務を行うために利用することがある。

## 10 出願資格の事前審査を要する場合

出願資格の(9)、(10)、(11)による出願を希望する者については、出願に先立ち事前審査を行う。なお、実際の出願の際には、入学願書原本とともに、事前審査提出書類以外の出願書類を提出すること。

事前審査書類を提出する場合は、事前に電子ファイル化して E-mail により送付し、確認を受けた後、提出期限までに到着するように追跡可能な手段で送ること。送付先等は「3 出願手続」の(2)出願書類送付先を参照すること。

試験区分コード	試験区分	事前審査書類の提出期限	審査結果の通知
2262	2026 年度秋季入学試験	2026 年 3 月 13 日(金) (日本時間)	2026 年 4 月 10 日(金)まで (日本時間)

提出書類等	摘 要	必要書類	
		出願資格 (9)(11)	出願資格 (10)
入 学 願 書 の 写 し	「3 出願手続」の(4)出願書類を参照のこと。	○	○
在 学 証 明 書		○	
卒 業 (見 込) 証 明 書			○
成 績 証 明 書		○	○
研 究 計 画 書		○	○
推 薦 書		○	○
教 育 課 程 表		○	
業 績 調 査 書	企業等において研究などに従事した履歴がある場合には、本学所定の様式(M5)に所要事項を記入すること。		○

## ■大学院アドミッション・ポリシー

会津大学は日本で最初のコンピュータ理工学専門の大学です。コンピュータ理工学は、応用性が広く、将来性が高く、知的生産技術の中核となる最先端の学問です。

会津大学は、「地域から世界へ」と「to Advance Knowledge for Humanity」（人類の平和と繁栄のために発明・発見を行うこと）を建学の理念とし、開学以来全国でも類を見ないほど、研究業績の優れた多数の外国人教員をそろえ、国際社会をリードする研究開発・教育を行ってきました。

会津大学大学院は、国際的に貢献できる先駆的な学術教育研究の場として、1997年（平成9年）4月に設置されました。本学大学院は国内の産業界からの提言も取り入れた多様な授業を行う優れた教育研究環境を提供することにより、創造性のある人材育成を目指しています。グローバル環境における問題解決能力を養うため、授業は基本的に英語で行われています。

会津大学大学院研究科が求める学生像及び入学者選抜の基本方針は以下のとおりです。

### 大学院の求める学生像

#### 【博士前期課程】

博士前期課程では国内外問わず、以下の資質を有する学生を求めます。

- ・ 本学、他大学、高等専門学校専攻科等出身で、コンピュータ理工学とは異なる専門分野を修得した人も含め、コンピュータ理工学の基礎知識と技術を持つ人。
- ・ コンピュータ理工学の先端知識と技術を習得し、あるいはさらにプロジェクト開発・マネジメントを学び、研究者やエンジニア、チームリーダーとして企業で活躍したい人。

#### 【博士後期課程】

博士後期課程では国内外問わず、以下の資質を有する学生を求めます。

- ・ 先端的コンピュータ理工学の研究を行うために十分な能力と意欲がある人。特に、学界において科学者・教育者として、または産業界において、研究者、あるいは新しいプロジェクトの立案・推進役として活躍できると期待される人。
- ・ 旺盛な好奇心、新しいことに挑戦する精神を兼ね備え、人類のための新しい知識と社会に役立つ新しいシステムの研究と開発への強い意欲がある人。

### 入学者選抜の基本方針

会津大学大学院では、先端的コンピュータ理工学を学ぶために必須となるコンピュータ関連基礎知識や技術、英語能力、意欲などを確認するため、研究計画を含む出願書類の審査を行うとともに、英語による口頭試験を課すこととしています。なお、試験区分によっては、出願書類の審査のみを行う場合があります。



## ■コンピュータ・情報システム学専攻

本専攻は、コンピュータ理工学部に基礎を置き、コンピュータシステムを用いて現実の問題を解決することで、その処理対象である“情報”の構造と機能について研究することを目的としています。

本専攻のカリキュラムは、問題解決型研究を基本方針としており、修士論文の作成は、専攻に応じた必修科目である研究科目として行われます。修了に必要な総単位数の2割がこの研究科目に割り当てられています。本専攻のカリキュラムは、個人を主体として2年間かけて研究が進められるようデザインされています。

本専攻では次の5つのフィールドを設定しています。

- CS Field CS 教育研究領域 (Computer Science コンピュータサイエンス)
- SY Field SY 教育研究領域 (Computer Systems コンピュータシステム)
- CN Field CN 教育研究領域 (Computer Network Systems コンピュータネットワークシステム)
- IT Field IT 教育研究領域 (Applied Information Technologies 応用情報工学)
- SE Field SE 教育研究領域 (Software Engineering ソフトウェアエンジニアリング)

学部カリキュラムのフィールドに合わせて設計されているため、学部から一貫してコースプランを立てることが可能となり、より体系的に専門性を身につけていくことができます。

### CS Field CS 教育研究領域

キーワード：アルゴリズム、コンピュテーショナルモデリング、理論的コンピュータサイエンス  
新たな理論の発展と実用システムへの展開を視野に入れて、先端のコンピュータシステム、知的システムを活用するための基礎技術、および多様に見える現象の本質を抽出して得られたコンピュータ理工学の核となる基礎理論を中心とした教育研究を行います。

### SY Field SY 教育研究領域

キーワード：組み込みシステム、VLSI テクノロジー、コンピュータデバイス、コンピュータ構成、並列処理

組み込みシステム、VLSI テクノロジー、コンピュータデバイスなど広範なコンピュータ技術を対象とした研究教育を行います。組み込みシステムの研究については、アプリケーションソフト、OS、アーキテクチャ、電子工学についての広く深い知識の習得を目標としています。また、VLSI テクノロジー分野では、デジタル設計に加えて、物理設計やアナログ電子回路についての研究を行います。コンピュータデバイス技術の研究には、マイクロ・ナノデバイスの理論と応用も含まれます。

並列処理は、現在も将来も、コンピュータにとって重要な原動力であり、ハードウェアアーキテクチャからアプリケーションソフトウェアまで広範囲におよぶ最先端かつ革新的なコンピュータ技術の研究を主眼としています。

### CN Field CN 教育研究領域

キーワード：コンピュータネットワークシステム

現代の情報通信サービスには、コンピュータネットワーク技術が不可欠です。本領域ではコンピュー

タネットワークシステムを構築する上で基盤となるデジタル通信、マルチメディア・ユビキタスネットワークワーキング、インターネット関連技術、および分散アルゴリズム等、コンピュータネットワークシステム開発に関する幅広い分野の教育研究を行います。

#### IT Field IT 教育研究領域

キーワード：バーチャルリアリティ、マルチメディア検索、インターネットコンピューティング、  
ヒューマンインターフェース、ロボット工学、バイオメディカル情報技術

バーチャルリアリティ・マルチメディア・バイオメディカル情報技術は、コンピュータ理工学分野において、重要であり絶えず進歩し続けている領域です。具体的には、コンピュータグラフィックス・アニメーション、インターネット・マルチメディアコンピューティングのためのモバイルシステム、バイオメディカルマルチメディアシステム、知的マルチメディアシステム、複合・拡張リアリティ、コンピュータミュージック、ネットワークメディアアプリケーション、コンピュータゲームなどが研究対象となります。

またウェブテクノロジーやヒューマンインターフェース、ロボット工学などの急速な進歩に対応して、マルチメディアオブジェクトを検索するためのウェブテクノロジー、ヒューマン・マシーン・インターフェーステクノロジー、ユビキタス環境におけるロボットテクノロジー、極限環境探査とリモートセンシングの研究・実験を通じた知識並びに技術の修得を目標としています。

#### SE Field SE 教育研究領域

キーワード：ソフトウェアエンジニアリング、並列・分散・インターネットコンピューティング、  
プログラミング

ソフトウェア工学は、コンピュータサイエンスと工学原理を適用し、ソフトウェアの開発・運用・保守を、体系的に規律を保ちながら実践するための学問です。最新のソフトウェア開発技術やツールの実践的活用法を身につけるとともに、様々なアプリケーション開発に参加し、要件を正確に定義・評価する方法から、問題を解決するための必要なリソース管理や開発工程の管理まで、得られた知識を応用することができるようになります。

## ■情報技術・プロジェクトマネジメント専攻

本専攻は、IT 産業に関わる実用的な問題を実際に解決することを通じた教育を行います。様々な実用的なソフトウェアの開発機会と、それをチームで取り組む環境を整えることで、他者との協働、個人としての取り組みの両方で自主性を発揮できるようなリーダーシップを醸成すると同時に、国際的教育を受けた最先端の情報技術専門家の育成を目指しています。

本専攻での教育研究は「プロジェクト開発アリーナ」と呼ぶスーパーコースを核としており、修了に必要な総単位数の約 4 割がプロジェクト開発アリーナに割り当てられています。このスーパーコースでは、学生がチームを組んで実用的なソフトウェアシステムを構築すること、4 篇のテクニカルレポートを作成すること、そして論文 1 篇が国際会議論文集へ掲載されることが求められます。チーム協働による集中的研究がこのプログラムの特徴です。

PM Field PM 教育研究領域 (Project Management and IT Specialist プロジェクトマネジメントと IT スペシャリスト)

キーワード：プロジェクトマネジメント、知的財産管理、ビジネスとコンピュータ産業、クラウドコンピューティング

国際的教育を受けた最先端の情報技術専門家の育成は、現代社会に課せられた重要な任務です。本教育研究領域では、信頼性の高い安全なソフトウェアを開発するための基礎知識や応用技術の習得を目指します。

また、本フィールドでは、システム開発において基礎知識から応用技術まで幅広い知識を身につけた IT リーダーを育成することを目指しているため、プロジェクトの内容に応じて必要となる知識を他フィールドから履修することが求められます。

具体的な目標は以下の通りです。

- ・ システム開発において主導的役割を担う技術者の育成
- ・ 国際的環境での英語を日常語とした研究開発の体験
- ・ 最新の知識と技術の習得
- ・ 国際的に活躍するために必要な資質の向上